

PACIS2011 大会ルポ

横田絵理 (よこた えり)
慶應義塾大学

15回目を迎えるアジア太平洋地域情報システム国際会議 PACIS (The 15th Pacific Asia Conference on Information Systems) が 2011 年 7 月 7 日～11 日の 5 日間、オーストラリア、ブリスベンのクイーンズランド工科大学 (Queensland University of Technology. 以下 QUT) にて開催された。

ブリスベンはオーストラリアのクイーンズランド州の都市である。大陸の東に位置しており、7 月の開催時期は暑い日本とは真逆の冬であった。とは言え、最高気温は 20 度と比較的過ごしやすくしかも晴天に恵まれ、当時の日本の節電モードの中で暑さに参っていた筆者などにとっては大変ありがたい気候であった。

開催校の QUT はブリスベン川のほとりにある大学で、ブリスベンの中心地からもほど近く、美しい大学である。

今回の PACIS の統一テーマは “Quality IS Research in Pacific” の下で、多様な国からたくさんの報告がなされた。トラック数は 27、そのほかにパネルセッションが六つ設定されていた。27 のテーマとして、例えば、Theory and Research Methods in IS, IS Implementation, Adoption and Diffusion といったテーマから IS for Corporate Responsibility, IS/IT in Healthcare, Human Behavior and IS, Accounting Information Systems, Service Science and Information Systems といった学際的な、経営学に近いもの、IS/IT Project Management, Web 2.0 and Data Mining, Empirical Research in e-Learning: Past, Present, and Future, Information Security and Privacy, IT Global Sourcing and Cloud Computing, Information System Control and IT Governance など、IT を活用したテーマ、Business Process Management, Enterprise Systems, IT/IS Leadership and Strategy など IT を活用した産業や基盤となるテーマなど多種多彩なもので構成されていた。経営情報学会も毎回多彩なテーマで構成されているが、PACIS においても同様であった。

同様ということではもう一つ、報告会場の雰囲気が、どこかいつもの経営情報学会を彷彿とさせるものがあった。というのは、報告に対して、フロアからざっくばらんな質問が投げかけられ、ともに報告について考えていくという場面が多かったのである。もちろん時には、厳しい質問があったとしても、会場の中の参加者が報告者とともに考えようとする協力的な姿勢からくるものと見受けられた。

話を大会のスケジュールに戻そう。

本大会は 7 日の夜の welcome party に始まった。QUT のなかの Old Government House というレトロな建物の中での立食パーティであった。途中からパントマイムも登場し (本当は最初から会場の中にいたようだが気づかれなかった)、盛況のうちに幕が開けた。

翌日は開会式の後、Keynote として Conducting Research in Asia-Pacific: Opportunitites and Pitfalls というテーマで City University of Hong Kong の Kwok-Kee Wei 教授の講演がなされた。その後は 30 分間のモーニングティを経て 9 トラック、各 3 コマの報告が始まった。1 時間半の昼食のあと、午後 9 トラックで 3 コマの報告、そのあとはアフタヌーンティ、再び 39 トラック 3 コマに加え、午後はパネルディスカッションが始まった。朝のお茶、昼食、午後のお茶が会場ですべて用意され、しかも時間もたっぷりとってあるので、研究者間でのコミュニケーションも円滑に行われているようであった。同様のスケジュールは翌 10 日と 11 日の最終日の昼食まで続いた。

9 日の夜には Conference Dinner が川のほとりのレストランで催された。ここで、今回の報告の優秀賞にノミネートされた人たちの紹介と最優秀賞の発表が行われた。また、終盤にはダンスも始まり、大いに盛り上がるディナーとなった。

今回、日本人参加者は日程の関係か少なかったが、9 日の午後のパネルディスカッションにて「Dis-

aster Management and Information Support」というタイムリーなテーマで平野雅章氏（早稲田大学）の司会の下、杉野隆氏（国士舘大学）、高田朝子氏（法政大学）、内山映子氏（慶應義塾大学）田名部元成氏（横浜国立大学）の5人による報告およびディスカッションがなされた。2011年3月11日におきた東日本大震災を例にとったITの役割や看護現場における事例、また地下鉄サリン事件を事例としたリスクマネジメントなどについての報告に、会場の関心も高く活発な討議が行われ、1時間半はあっという間であった。

筆者は、日本で2002年に開催されたPACIS2002以来の参加であったが、ブリスベンという美しい街で、若い研究者たちが、自由闊達に会場で議論を行う姿に大いに刺激を受けることができた。

来年の開催はベトナムのホーチミンで行われる。9日の夕食会では、ホーチミンがどれほど美しく良いところであるのかという説明が映像を使ってなされていた。来年も楽しみである。



図2 パネルディスカッション会場

略歴

横田 絵理（よこた えり）

慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程修了。博士（経営学）。

1995年から武蔵大学経済学部勤務。2005年から慶應義塾大学商学部教授、現在に至る。



図1 会場を示すロゴ